

Step 1

「私」の「上野の辞書」に対する見方は初めと終わりでどのように変化したか、まとめよう。

辞書に対する見方	根拠となる記述	上野に対する心情
初め ただ古くて汚いだけの辞書。	・見るからに古く、年季の入った辞書だった。四隅がぼろぼろで、ページも手あかで黒ずんでいた。箱もなく、白かったであろう表紙はねずみ色といつていいぐらいにくすんで、金色の題字は剥がれてほとんど残っていない。 ・お前、汚い辞書使ってんな。	うまく辞書を扱えない自分と違って、古い辞書を熱心に読んで、はがゆい気持ち。

変化の
きっかけ

上野が描いた辞書の絵に、指紋がびつしりと描かれ、辞書の周囲には辞書に向かって伸ばされた指や腕の幾重もの残像が描かれていることに気づいたこと。

Step 2

「私」の上野の辞書に対する見方が変わったとき、上野に対する心情はどのように変わっただろう。
「はがゆい」と「探究心」の二語を使い、想像して書こう。

辞書に対する見方	根拠となる記述	上野に対する心情
終わり ただの古い辞書ではなく、過去に使ってきた人たちの探究の営みが残された辞書。	・私は受け継がれていく人の営みを感じずにはいられなかった。	

最初はただ古いだけの辞書を熱心に読んでいた上野に対して、はがゆい気持ちを抱いていたが、上野が描いた絵を見て、辞書を通して受け継がれてきた探究心を自分も受け継いでいこうとしていることを感じ、素直に上野を認める気持ち。